

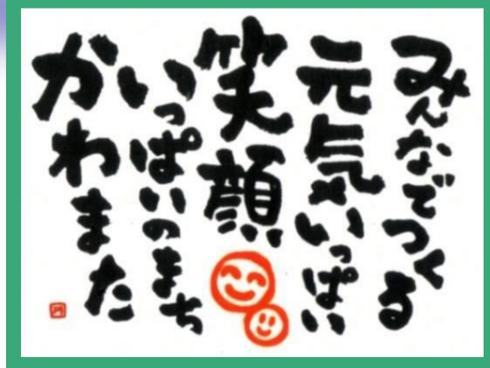
# 川俣町スマートコミュニティ事業 が、めざすもの・・・

川俣町は  
エネルギーを  
「つくる・ためる・  
賢く(スマートに)使う」  
まちの  
実現をめざします。

## スマートコミュニティとは・・・エネルギーの地産地消

地域社会が、エネルギーを消費するだけでなく、つくり、蓄え、賢く使うことを前提に、地域単位で統合的に管理する社会のことです。  
産業や社会生活の基盤となる住宅、施設、交通網、公共サービスなどがIT（情報技術）を利用することで、エネルギーの最適な活用ができる次世代送配電網スマートグリッドを基礎とした情報ネットワークに接続し、環境負荷が少ない暮らし方を実現します。  
ここでいうスマートは賢いと訳され、「賢くエネルギーを使う」という意味で用いられています。





川俣町はエネルギーを「つくる・ためる・賢く(スマートに)使う」のまちの実現をめざします。

エネルギーを賢く使い、節約します

町内で使うエネルギーを把握し、賢く運用する『町ぐるみ地域エネルギー管理システム』を導入します。

新たにつくる町役場に、『町ぐるみ地域エネルギー管理システム』を置き、運用管理をします。新山木屋出張所にも、サブセンターを整備し、連携します。

エネルギーを見える化し、節約します



町全体の電気の使用状況をどこでも見えるようにします。これを見て、無駄遣いを減らし、電力使用量を節約できます。



新町役場は、スマートコミュニティの象徴に・・・

新しい町役場は、耐震性が高く、再生可能エネルギーを大幅に取り入れた省エネ建物となり、スマートコミュニティの拠点として、親しみやすい役場になります。

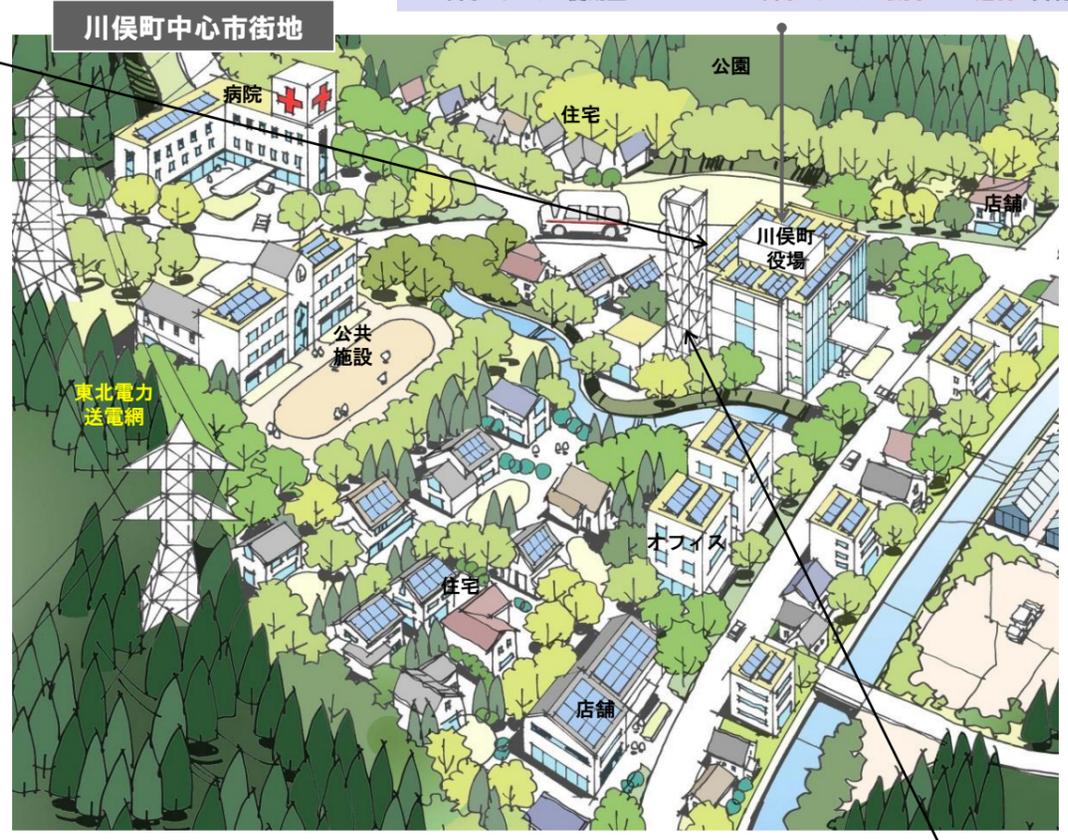
耐震性→ まれに起きる巨大地震(震度6強)で機能維持  
年間エネルギー使用量→ 年間エネルギー収支ゼロの建物を実現

町ぐるみで省エネルギー

電気や水、燃料などを無駄使いたないように、町ぐるみで省エネ活動を進めます。表彰制度を作り、エコリーダーを選出するなど、エコ意識を高めていきます。

スマートなエネルギー利用で各住宅で節約

住宅では、可能な範囲で『住宅エネルギー管理システム』を導入し、エネルギーのスマート利用を進めます。



再生可能エネルギーをつくり売電します

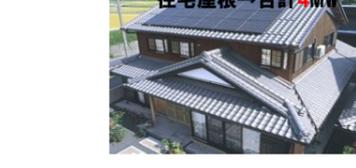
風の通る尾根筋に風車を設置し、大きな再生可能エネルギー電力をつくります。



メガソーラーを設置し、大規模な太陽光発電を行います。



公共施設の屋根 事業所の屋根 住宅の屋根に、太陽光発電パネルを設置します。



脱原発をめざします

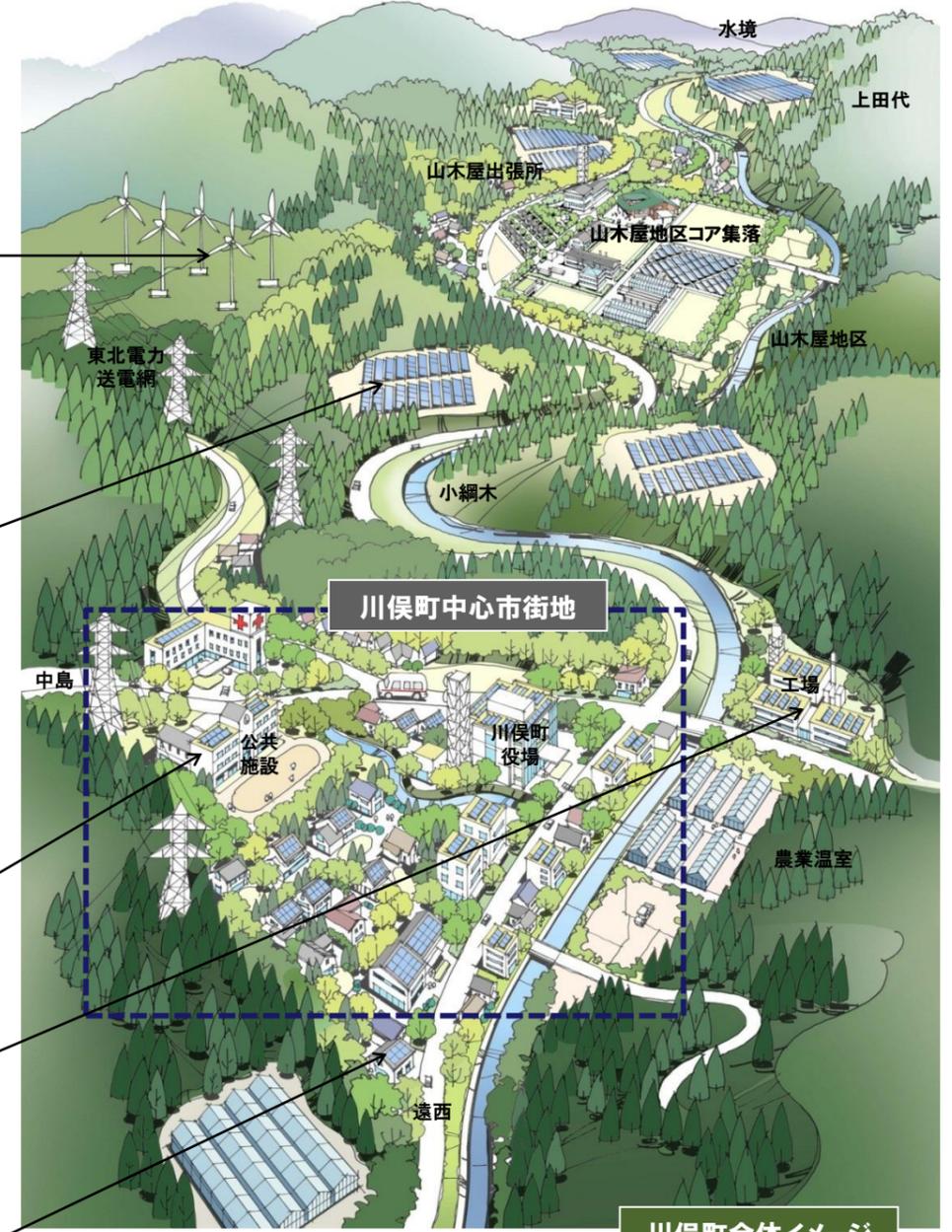
町で使う電力のうち、暮らしや行政、病院など基礎生活部分(約3割)を、再生可能エネルギーでまかないます。

町で使う年間全電力量→106GWh/年  
町で使う基礎生活の電力量→32GWh/年  
再生可能エネルギー発電量→33GWh/年

町のコミュニティを活性化します

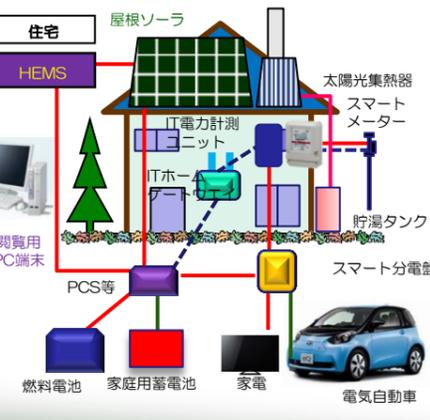


地域コミュニティの基盤を整備します。生活再建・雇用拡大、復興アクションのエンジンになります。



環境価値を証券化します

バイオマスや再生可能エネルギー利用により、環境価値を創り、証券化して町の収入にします。森林も適切に管理すれば、これも証券化できます。



災害時も安心です

公共施設や学校・病院は、防災拠点となります。『町ぐるみ地域エネルギー管理システム』の整備により、情報基盤と災害時エネルギー対応力を強化し、防災拠点機能が向上します。

屋根ソーラーや余剰買取型メガソーラーに、蓄電池を併設し、行政施設などには発電機を設置します。停電時に、非常用電力として使います。停電時に、どこで電気が使えるかわかる(見える化)ので便利です。

防災無線を強化します。平常時は、町からのお知らせなどのサービス向上に役立ちます。災害時には、様々な手段で情報を伝えます。

停電時必要電力→2.9MW

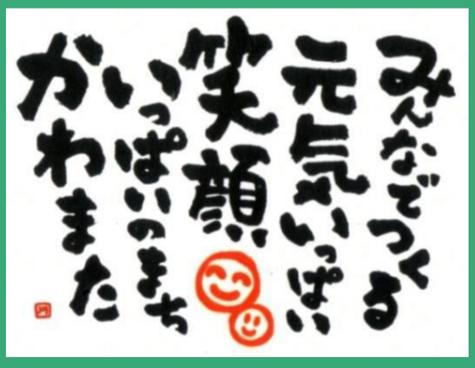


山木屋地区コア集落整備が  
本格復興のスタートになります

山木屋地区に、新しい町の中心区画を作り  
山木屋地区の復興開始のシンボルとします。



川俣町全体イメージ

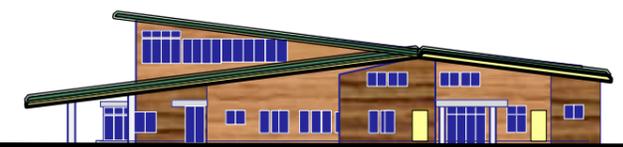


川俣町は  
エネルギーを  
「つくる・ためる・  
賢く(スマートに)使う」  
の  
まちの  
実現をめざします。

共生型診療所・高齢者施設ができ、過疎地域の医療介護の不安を解消します

診療所には、見守りシステムを導入し、  
移動診療車もすぐに駆けつけることが  
できるようにします。

ケアハウスやリハビリ施設を設置します。  
診療所も隣にあるので安心です。  
コミュニティ温浴施設では入浴ができ、地域の  
人との交流の場となります。



新山木屋出張所は、  
スマートコミュニティの象徴に・・・

新しい山木屋出張所は、耐震性が高く、再生可能エネルギーを買取り入れた省エネ建物となります。スマートコミュニティの拠点として、親しみやすい町民施設ができます。新たな形での農業についての情報が、出張所内の図書室に集まり、研修や会議にも使用でき、地区外からも人が集まります。

バイオマスから温水を作ります

町のバイオマスで作られた温水を、温室の暖房や植物工場の空調、シャワーに使います。エネルギーの地産地消を図ることができます。町から出るバイオマスが増えてきたら、熱プラント施設を増やし、将来は、バイオマス利用を進めます。

人工光型植物工場で  
安心して働くことができます

しっかりと管理された工場で、安心して働くことができます。

植物工場の農作業は楽しい

体を動かすことができ農業に携わる喜びを感じることができます。

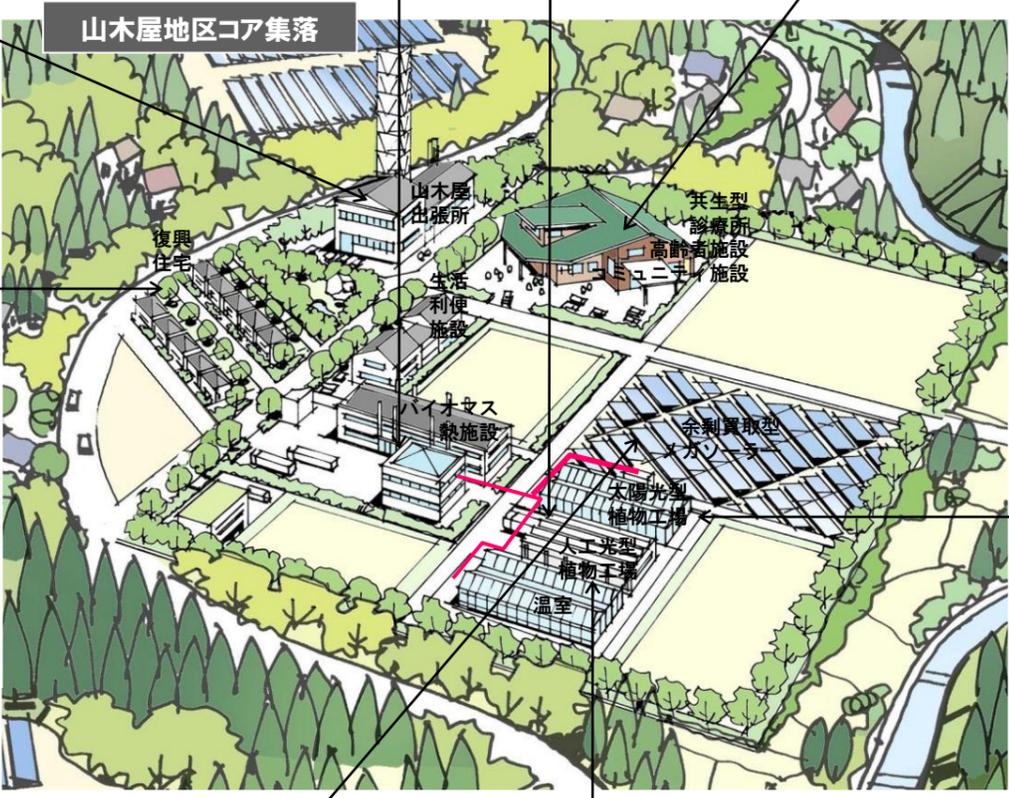


エネルギーを買く使い節約します

山木屋出張所にもコントロールセンターが置かれ、『町ぐるみ地域エネルギー管理システム』の運用管理をしていきます。

モデル復興住宅を作ります。

太陽光発電と家庭菜園が付いた、モデルとなる復興住宅をつくります。生活利便施設も医療機関も近くあって便利です。



植物工場の経営が  
成り立つよう応援します

花卉植物などを研究して出荷することを検討します。



よい農産品ができれば、温室や植物工場を増やします。たとえば・・・



余剰買取型メガソーラー→1MW



人工光型植物工場



需要拡大が期待できる接木苗・・・  
他の名産地に負けない夏いちご・・・  
(レシピまるごと開発してWeb直販)

